

九州大学新聞

<https://hdl.handle.net/2324/1520859>

出版情報：九州大学新聞. 688, 1975-09-25. 九州大学新聞部
バージョン：
権利関係：



(下)

カラールのおかみさんの銃

翻訳：和田耕治

[illegible][illegible]

谷川雁の自我処刑

——戦後詩の位相②——

境

『戦後』の「田村隼」(四三・一)は、「放蕩の第選だ
 三葉創作社」は「われわれ」という一余蘊教養イ・モチ
 としていた。それは、戦争中か戦後に向けた究極共有した
 境の現に受られていた。そこは「われ」の死でなく
 「われ」の死であらう。

『戦後』の「田村隼」(四三・一)は、「放蕩の第選だ
 三葉創作社」は「われわれ」という一余蘊教養イ・モチ
 としていた。それは、戦争中か戦後に向けた究極共有した
 境の現に受られていた。そこは「われ」の死でなく
 「われ」の死であらう。

[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]

まただぞ、あの時は
つらみぢな女だ！
夜に、おれはこそり浮
出ず。おれは、ちやあつ
き死なうい！

人語驚き倒れるとは由
来ん、つて、おれは、あの子
を、あのが機織のうしろ
で自分の腰をうつように
は、生かさん、この世不正
は、是のこそ罪だん、若
そして、開いた者の口から
一丁一の血が、血の手心
に滴ねどく、んぐ、死
んだワン・マルを運ん

「何て言はれたのか」
肉體(にくたい)のつむ(む)になど、母親は、軀壳(こくわ)支持(し)をけ、それを見下(みくだ)す。

戦後詩の位相 ②

境忠

—戦後の現実に入りこむために—

「戦後の現実に入りこむために」

日・プレヒト「カラルのおかみさんの銃」和田耕作訳は今回で終了。来月号に和田氏の評論を掲載の予定。